お面かぶり

文化財記録映画シナリオ

▽　企　画　世田谷区教育委員会

▽　制　作　世田谷を記録する会

世田谷に江戸時代から伝えられた無形民俗文化財の映像化。九品仏浄真寺の二十五菩薩来迎会式はお面かぶりと呼ばれ三年に一回行なわれる相続行事。練行列は三十六間のかけ橋を渡って、極楽浄土をあらわす上品、中品、下品の三仏堂へ向います。

このお面かぶりの記録は、昭和五十三年度に制作した文化財記録映画「民俗は生きている」のため十六ミリによりカメラ二台を駆使して全貌を撮影したものを編集したものです。世田谷の民俗の記録映画ではハイライトの部分を使用したのみであったため、是非多くの方々へ貴重な伝統行事であり無形民俗文化財であるお面かぶりの全容をわかりやすく解説し、郷土の歴史的文化遺産の存在を見直しいただきたく十六ミリ映画のほか、ビデオテープを制作した次第です。

制作にあたっては、九品仏浄真寺の全面的な撮影協力ならびに清水碩順住職の監修指導のもとに完成を見ましたことを深く感謝申し上げます。

〔世田谷区教育委員会〕

企画　世田谷区教育委員会

監修　清水碩順（九品仏浄真寺住職）

制作　世田谷を記録する会

監督・浅野辰雄（日本記録映画作家協会）

脚本・浅野辰雄

撮影・福沢康道（日本映画撮影監督協会）

文平基哲（　〃　〃　）

ナレーター・高島　陽

録音・大田六敏（櫂の会）

現像・ソニー・ＰＣＬ

協力　九品仏浄真寺

「お面かぶりについて」

奥沢の九品仏と俗称される浄土宗九品山唯在念仏院浄真寺の二十五菩薩来迎会は、通称!!お面かぶり!!と呼ばれ昭和三十八年三月十九日に東京都の無形民俗文化財の指定を受けています。

今から一五〇年前の文政十年（一八二七）に浄真寺のお面かぶりが始めて行なわれたことが「宝暦現来集」や「武蔵野歴史地理」などの本に出ています。

二十五菩薩来迎会は奈良の当麻寺で古く平安中期の頃から行なわれており、江戸では宝暦十一年（一七六一）新鳥越念仏院の中将姫忌や明和八年（一七七一）両国回向院の大和当麻誕生寺の阿弥陀如来出開張に行なわれたことが知られています。九品仏のものもこれらにならって行なわれたものでしょう。

お面かぶりというのは、極楽浄土を現わす上品堂と娑婆世界である本堂との間に三十六間のかけ橋（二河白道）を架けて、観世音菩薩、勢至菩薩、阿弥陀如来などのお面をつけた人々がこの橋をしずしずと往復して阿弥陀仏の来迎引接をあらわす練供養の行事をいいます。

旧暦七月十六日から十八日、現在は八月十六日から十八日まで寺では虫干供養を行ない、寺の什宝を展示し、お面かぶりは三年目ごとにこの期間行なわれていました。

戦前は境内に茅葺の講中部屋がいくつもある建物があって行事のある三日間は盛大であったそうですが、戦火の危険からその建物も取り壊わされ講中の人々も散々になってしまったため昭和十七年のお面かぶりで中断し、昭和二十年、二十三年の時は戦後の混乱期で出来ず、ようやく昭和二十六年になって再興され今日に続いていますが、最近は、かっての三日間でなく八月一六日の一日だけで、日に三回の橋渡りが行なわれます。来迎会の史

的意義は、親鸞上人の念仏による往生が次第に庶民化して、農民層と結びついてゆき、一方絵画の面においては阿彌陀来迎図の出現となり、更にその具体化されたものが来迎会となったものと考えられます。

世田谷の浄真寺以外では、奈良の当麻寺、大阪平野の大念仏寺、岡山の誕生寺、京都今熊野の即成院、神戸の藤之寺などで今日も来迎会式が行なわれていることが知られています。